

第 23 回 東京エリア Debian 勉強会 事前資料

Debian 勉強会会場係 上川 純一*

2006 年 12 月 16 日

* Debian Project Official Developer

目次

1	Introduction To Debian 勉強会	2
1.1	講師紹介	2
1.2	事前課題紹介	2
2	Debian Weekly News trivia quiz	5
2.1	2006 年 41 号	5
3	最近の Debian 関連のミーティング報告	6
3.1	東京エリア Debian 勉強会 22 回目報告	6
3.2	関西オープンソース Debian BOF	6
4	Debian 勉強会資料の作成方法	7
4.1	レポジトリを取得し、パッケージの準備を行う	7
4.2	pLaTeX で文書作成	7
4.3	pLaTeX+latex-beamer で文書作成	8
5	Debian 勉強会 2006 年結果統計	9
5.1	Debian 勉強会評価項目	9
5.2	新規の参加者	10
5.3	新規に参加して二度以上参加してくれた参加者の数	10
5.4	Debian Developer 比率	10
5.5	参加人数	11
5.6	実施テーマ	11
5.7	会議の構成	12
6	Debian 勉強会 2006 年、作業フロー	13
6.1	年に一回の作業	13
6.2	事前準備	13
6.3	事後処理	13
7	Bug Squashing Party	14
7.1	はじめに	14
7.2	Bug Squashing Party とは?	14
7.3	今回行われた Bug Squashing Party	15
7.4	まとめ	17
8	次回	18

1 Introduction To Debian 勉強会

上川 純一

今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るという方も、すでにどっぴりとついているという方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として下記の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってもらえないような情報を情報共有する場をつくる
- まとまっていない Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として出してみる

また、東京には Linux の勉強会はたくさんありますので、Debian に限定した勉強会にします。Linux の基本的な利用方法などが知りたい方は、他でがんばってください。Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがり作りながらスーパーハッカーになれるような姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするという能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、というのが目的です。今回は違うこと言ってるかもしれませんが、御容赦を。

1.1 講師紹介

- 上川 純一 宴会の幹事です。

1.2 事前課題紹介

今回の事前課題は「来年の Debian 勉強会でやりたいこと」もしくは「来年の Debian 勉強会のスタイルを提案する」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください。というものでした。その課題に対して下記の内容を提出いただきました。

1.2.1 小林儀匡さん

『来年の Debian 勉強会のスタイルを提案する』

Debian 勉強会もついに 2 歳を迎え、パッケージ作成作業に関連する各種ツールの使い方・Debian Policy Manual の内容・翻訳作業などといった、開発者への入口となる情報を提供するテーマは一通り扱ったと思います。それらの内容に大きな変化があったらそれは更新する必要がありますし、まだ触られていないツールについても扱う必要があると思いますが、開発者への入口をまとめたドキュメントの提供という当初の大きな目的の一つ^{*1}は大方達成されたのではないのでしょうか。

このような状況を鑑みると、これからは、「現在の Debian GNU/Linux システムに存在する問題点を何かしら見つけて、それについてグループディスカッションのようなかたちで掘り下げ、今後の開発作業に繋げてみる」という問題発見型の勉強会も必要になるのではないかと思います。これまでも飲み会で「あれはどうかならないか」と議論

^{*1} というのは自分の勝手な思い込みかもしれませんが。

になったり、ネットワークの設定についての課題への回答を巡って議論になったりしましたが、このような議論をきちんとしたかたちでやってみる、ということです。理想的には(かなり大きな理想ですが)、本勉強会で議論したことを Debian 本家のメーリングリストに英語で流して、それを元に何かを生み出せればとても素敵だと思います。もちろん、これを毎月行うのはやや負担が大きく、実際の作業がなかなか進まないままネタ切れというのがオチになる可能性もあるので、これまでのように、会議の報告や「Debian でこんなことをしてみた」というネタ的な話、開発関連ツールではないがまとめておくとうるな事項 (glibc・Flash・マルチメディア関連・.....) のまとめなども混ぜていく必要があるかと思いますが.....。

ネタがなくなって勉強会自体がマンネリ化しただらだら続くことのないよう、自分ももう少し提供できるネタがないか考え、そして実際に提供しながら臨みたいと思う 2006 年冬です。

1.2.2 前田 耕平さん

お題「来年の Debian 勉強会のスタイルを提案する」として、ワークショップ形式で議論するのが良いですね。他の参加者の方と(宴会以外で)話す機会も増えますので。って、今回はもろにそういう形式のようですね。失礼しました。

あとは、ハンズオンとか。帰宅後に資料を見てやるのも良いのですが、宴会の後、帰宅したら寝てしまうので、やはりその場で手を動かす方がより効果が高いかと。(次の日だと忘れるか、覚えていてもやらない、という事もままあるので...)

1.2.3 澤田さん

スタイルの提案で書きます。「`/etc/network/interfaces` をさらしてください」という事前課題はいろいろバッドノウハウが出て盛り上がったことと思われ(諸事情により参加しませんでした)。

そこで今後も、ある事項について、「私はこうやっています」という事前課題を書いてもらい、バッドノウハウとしてまとめるというのはどうでしょうか? 例えば、「`apt-get upgrade` したらパッケージが壊れていてアップグレードが完了しない。怒りの BTS は当然投げるとして、とりあえずどう対処する?」とか、「バックアップ、何使ってますか? 何バックアップしてますか?」(「バックアップ Debian」でググるとやまねさんの過去の投稿がありますね)とか、知っている人は知っているというバッドノウハウが多いと思います。

1.2.4 小室 文さん

「来年の Debian 勉強会でやりたいこと」勉強会でやりたい事ではないですが、女の子の参加者をもっと増えるように地道な活動をしようと思ってます。いないはずはないので、勉強会に来てもらえるようにいろんな所で探したいと思います。

「来年の Debian 勉強会のスタイルを提案する」継続して多くの人に参加しないのは、参加者のレベルに(しょうがない事ですが)バラツキがある為だと思います。ちょっと分からない単語や内容を後で調べてみよう、というレベルの開きではなくて、何の事がすら分からない事が時々あります(特にカーネル関係は難しい...)。debian 勉強会 + 初級・中級者向け勉強会があったら、利用者も増えて階段を上る感じがいいかもしれません。(有志なので難しいとは思いますが。。)

1.2.5 キタハラさん

現在の Debian 勉強会のスタイルに不満点はないのですが...

最近、初心者向けの某勉強会で輪読していて、20 年前の学生時代の雰囲気堪能して来ました。

輪読は、対象となる資料を「事前に読んで」おき、その時に理解できなかった所や疑問に思った所を、当日「有識者と共に」ディスカッションする事により、「他の参加者の視点」と共に対象の事柄を「より深く理解」できるという利点があると思います。

現在の Debian 勉強会で輪読を行うのは、少々無理があるかもしれませんが(別枠で初心者向け『徹底入門第 4 版 ~ etch 対応(仮?)』の輪読(読書会)があったら参加したいなあ~)、適当な長さの資料を事前に読んでおき、当日

参加者が順番に読んで、疑問点や注意点を話し合うコーナーを作るという形ならば、実現可能かもしれません。

1.2.6 青木さん

「来年の Debian 勉強会でやりたいこと」というお題をいただきましたのでおひとつ話させていただきます。

今まで Debian 勉強会に関して開催形態（課題があること）に減らず口を叩いた以外出席すらしてきていない私が Debian 勉強会で何をするかを語るのもちょっと変な気がします。

でもソフト関係で食ってるわけでもないわたしが今まで DEBIAN でいろいろしてきた経験を、長く終わりの見えない NM プロセスに取り組もうとされている方々と共有する機会がもてればいいのではないかと考えています。

それに DEBIAN は英語でのコミュニケーションが DD として続く必須条件という状況もあります。これって多くの日本人にとって結構気の重いものではないでしょうか？

これらの障害のある DEBIAN ですが、だからこそ日本人が参加し、日本語環境を世界中どこにいても誰でも使えるようにしようではありませんか？いま日本語環境をサポートしているひとは少ないので、是非協力してくれるひとを見付けたいものです。

それから、内容が古くなったのが否めない DEBIAN REFERENCE をもう少しバージョンアップに影響されないようにしたかたちにする、そして XML に変更する作業をどなたか見付けられないかなという勝手な期待もあります。

1.2.7 上川

勉強会のスタイルは、理由があっそうなっている部分もありますが、最初にこうしたからこうなっている、ということと特に理由があっ決まっていな部分もあります。たまにはそういう部分に変化を加えていかないと、マンネリになってしまい、飽きてくるので、変化させることは重要だと思っています。是非みなさまのアイデアを活用して何か違う形を採り入れたいとおもっております。

2 Debian Weekly News trivia quiz

上川 純一

ところで、Debian Weekly News (DWN) は読んでいますか? Debian 界隈でおきていることについて書いている Debian Weekly News. 毎回読んでいるといろいろと分かって来ますが、一人で読んでいても、解説が少ないので、意味がわからないところもあるかも知れません。みんなで DWN を読んでみましょう。

漫然と読むだけではおもしろくないので、DWN の記事から出題した以下の質問にこたえてみてください。後で内容は解説します。

2.1 2006 年 41 号

<http://www.debian.org/News/weekly/2006/41/> にある 11 月 28 日版です。

問題 1. Debian Conference 7 日程が決まりました。いつからでしょうか。

- A 4/1
- B 5/22
- C 6/17

問題 2. Debian Project に新しい開発用マシンが導入されました。どのマシンでしょうか。

- A Sun Fire T2000
- B Sony Playstation 3
- C TiVo Series2 DVR

3 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川 純一

3.1 東京エリア Debian 勉強会 22 回目報告

2006 年 11 月 19 日に第 22 回 Debian 勉強会を実施しました。Sid の使いかたについて、Debian BTS の紹介、パッケージの作り方についての紹介を行いました。今回は関西開催です。今回の参加人数は 20 人くらいでした。参加者は出欠をとっていないので正確にはわかりませんが、藤澤さん、畑中さん、浜辺さん、乾さん、亀谷さん、谷口さん、久松さん、岩松さん、山下さん、榎さん、岩本さん、さとうまことさん、小森さん、やまねさん、上川でした。

まず、事前課題の紹介をしました。Debian についての疑問や、今後の Debian Project への気概が感じられました。今回は、事前課題の紹介が盛り上がりすぎて、クイズをするのを忘れていました、ごめんなさい。

上川が sid の使いかたについて紹介しました。apt-listchanges はデフォルトでは root にメールを送ってくれるという仕組みになっていますが、dpkg-reconfigure apt-listchanges で設定してあげると、インストール前に changelog を提示してインストールするかどうかを質問してくれるので、是非みなさんそういうつかいかたをしましょう、という話が出ました。

上川が Debian BTS の使いかたについて紹介しました。仕組みとか裏側のマニアックな話の概要だけを紹介しただけだったので、今後さらに深みにはまっていく必要があります。

岩松さんが、パッケージの作り方を cairo-dock パッケージを例にして紹介していました。わかりやすい説明にみんなパッケージをがんがん作れるようになったようです。

今回宴会は「One's」で行いました。勉強会の会場から京橋の宴会会場まで 40 分くらいかかりましたが、無事遭難せずに到達できました。結婚式の二次会を裏でやっていた司会の声がうるさかったので、今後は結婚式の二次会をやらないような店を選んだ方がよいかもかもしれませんね。

今回の企画は大阪電気通信大学の久松先生の全面的な御協力をいただき実現しました。ありがとうございました。

3.2 関西オープンソース Debian BOF

2006 年 11 月 18 日・19 日関西の関西オープンソースの中で Debian BOF を 11 月 19 日午後開催しました。岩松さん、山根さん、上川で発表しました。Debian Project の紹介、Debian JP の紹介、そして、Debian etch がどうなるのか、という紹介をしました。会場では Debian ユーザが 30 人程度参加しました。個人的には、knoppix ベースのマルチメディア向けディストリビューションを開発しているのがじゅんさんにお会いできたのが印象的でした。

4 Debian 勉強会資料の作成方法

上川 純一

4.1 レポジトリを取得し、パッケージの準備を行う

レポジトリをチェックアウトします。

```
$ cvs -d :ext:cvs.alioth.debian.org:/cvsroot/tokyodebian .
```

ディレクトリ構成は次のようになっています。

- monthly-report: TeX のソースが全部フラットにおいてあります。ファイル名は、 debianmeetingresumeYYYYMM.tex という名前になっています。プレゼンテーションファイルは debianmeetingresumeYYYYMM-presentation.tex という名前になっています。
 - imageYYYYMM:各月用の画像ファイル
 - debian: デビアンパッケージ用ディレクトリ
- muse: ウェブ (wiki)
- meetinglog: 議事録置場

ビルドに必要なパッケージをインストールします。

```
apt-get install ptex-bin dvipdfmx latex-beamer \
okumura-clsfles gs-esp xpdf xpdf-japanese
```

編集に便利なツールもついでにインストールしてみてもよいでしょう。

```
apt-get install whizzytex advi emacs21 yatex
```

4.2 pLaTeX で文書作成

make コマンド一発で PDF ファイルまで、コンパイルすることができます。Makefile には、あらゆる debianmeeting*.tex ファイルに関して .pdf ファイルを作成するようにルールが作成されています。

注意する点として、印刷を考え、ページ数が 4 の倍数になるようにしてください。

```
SOURCE:=$(wildcard debianmeeting*.tex)
DVIFILES:=$(SOURCE:%.tex=%.dvi)
PDFFILES:=$(SOURCE:%.tex=%.pdf)
all: $(PDFFILES)

%.pdf: %.dvi
    dvipdfmx $<

%.dvi: %.tex
    # check kanji-code of the tex file.
    iconv -f iso-2022-jp -t iso-2022-jp < $< > /dev/null
    platex $<
    platex $<
    platex $<

clean:
    -rm *.dvi *.aux *.toc *~ *.log *.waux *.out _whizzy_* *.snm *.nav *.jqz
```

4.2.1 画像ファイルの処理

画面写真の画像を追加するときは、できるだけサイズの小さい png などを利用してください。グラフなどの線画であれば、eps でかまいません。png であれば、ebb コマンドを利用して bounding box を作成してください。

```
ebb XXX.png
```

ps であれば、eps2eps でバウンディングボックスを追加してあげるとうまくいきます。sodipodi の出力する ps を eps2eps で処理すれば sodipodi で画像を作成することができます。

4.3 pLaTeX+latex-beamer で文書作成

残念ながら whizzytex でプレビューはうまく動かないです。

がりがりで作成し、xpdf でプレビューしながらがんばって作成してください。

参考：Debian 勉強会のウェブインタフェース

Debian 勉強会のウェブインタフェースについて解説します。

初期は <http://www.netfort.gr.jp/~dancer/column/2005-debianmeeting.html.ja> にあるページを手動で生成していました。

CMS を採用したいところでしたが、CMS を探索している間中ずっと手動で生成しているのも困難なので現在のページにかわりました。<http://tokyodebian.alioth.debian.org/2006-11.html> のようなページになっています。

該当するファイルは CVS レポジトリの muse/ ディレクトリにあります。emacs を wiki 処理系として利用しており、Makefile から emacs を呼出し、HTML を静的に生成するようになっています。

今後実現していきたい内容としては

- RSS をはくアナウンスページ
- ユーザ参加登録と同時に事前課題登録
- 事後のアンケート
- 登録ユーザへの次回通知
- 事後の資料公開・感想文公開

があります。

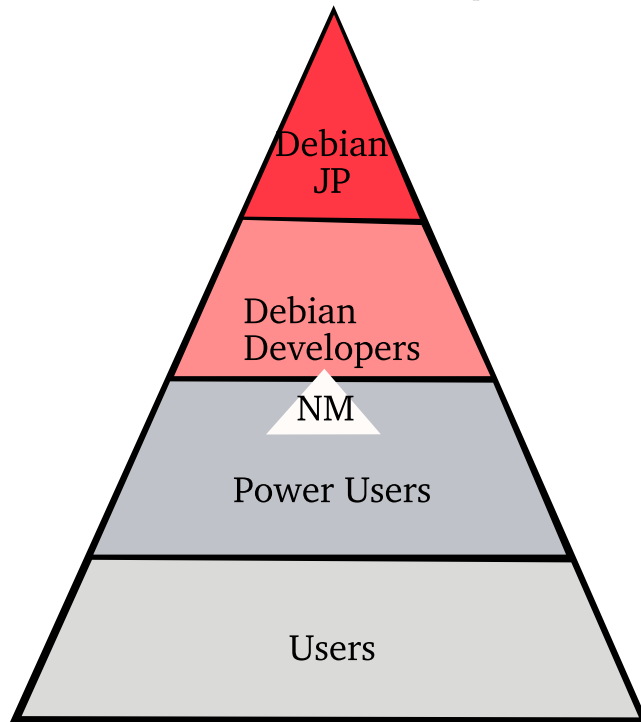
muse-el は一般的な構成ではなく開発もあまり活発でないので、今後利用ツールを変更したいと考えています。

5 Debian 勉強会 2006 年結果統計

上川

5.1 Debian 勉強会評価項目

Debian の開発者を増やしていき、Debian の活動を活発にしていきたい、そういう思いで Debian 勉強会は開催しています。そもそも Debian のユーザの裾野がひろがり、活発なユーザが増え、ユーザが開発者になろう、と思って、NM プロセスを通らないと、Debian Developer は増えません。



Debian 勉強会が成功した、という場合、何がおきた場合でしょうか。

- 直接貢献: バグがどんどんクローズされていき、新機能が追加
- 各種アプリケーションの日本語対応が進捗
- 日本から Debian Developer を生み出す
- 日本の Debian ユーザが増える
- すでに経験の豊富な Debian Developer の知識を展開
- ドキュメントが増える

直接評価できる指標としては下記があるでしょう。

- 日本語で増えたドキュメント数
- Debian Developer の参加者数

- Debian Developer でない参加者数
- 新規の参加者
- 新規に参加して二度以上参加してくれた参加者の数

それでは、値がどういうものか見てみましょう。

概算の値なので、正確ではありません。過去の記録を発掘して、今後の検討のためにひねり出しているものです。

5.2 新規の参加者

- 2005 年 1 月: 20 人
- 2005 年 2 月: 6 人
- 2005 年のこり: 12 人
- 2006 年 -6 月: 9 人
- 2006 年 -10 月: 14 人

5.3 新規に参加して二度以上参加してくれた参加者の数

参加者の統計です。

- 2005 年: 39 人中 21 人
- 2006 年上半期 (-6 月): 9 人中 5 人
- 2006 年下半期 (-10 月): 14 人中 2 人

5.4 Debian Developer 比率

のべ参加者の中からのおよその分析ですが、どれくらいの参加者が Debian Developer で、どれくらいの参加者が New Maintainer Queue に入っているか、の統計です。

- 2005 年: 39 人中 DD 4 人? NM 3 人
- 2006 年 -10 月: 36 人中 DD 6 人 NM 6 人

5.5 参加人数

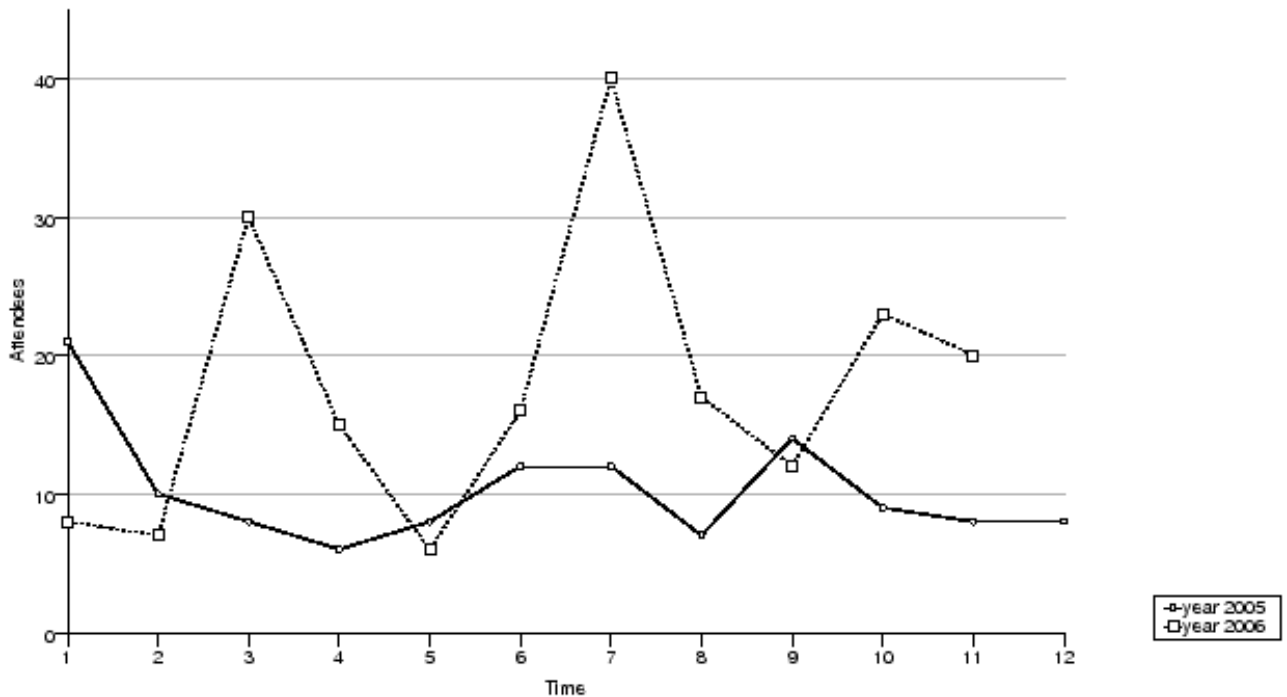


表 1 参加人数 (2006 年)

表 2 参加人数 (2005 年、概算)

	参加人数	
2006 年 1 月	8	policy,Debian 勉強会でやりたいこと
2006 年 2 月	7	policy, multimedia
2006 年 3 月	30	OSC: debian 勉強会,sid
2006 年 4 月	15	policy, latex
2006 年 5 月	6	mexico
2006 年 6 月	16	debconf, cowdancer
2006 年 7 月	40	OSC-Do: MacBook Debian
2006 年 8 月	17	13 執念
2006 年 9 月	12	翻訳、Debian-specific、oprofile
2006 年 10 月	23	network, i18n 会議、Flash、apt
2006 年 11 月	20	関西： bug, sid, packaging
2006 年 12 月	14	忘年会

	参加人数
2005 年 1 月	21
2005 年 2 月	10
2005 年 3 月 (早朝)	8
2005 年 4 月	6
2005 年 5 月	8
2005 年 6 月	12
2005 年 7 月	12
2005 年 8 月	7
2005 年 9 月	14
2005 年 10 月	9
2005 年 11 月	8
2005 年 12 月	8

5.6 実施テーマ

今年は下記のテーマを実施しました。

- Debian weekly news クイズを隔月で
- グループワーク:Debian 勉強会でやりたいこと
- Debian Policy 入門
- Debian Multimedia Project
- Debian 勉強会紹介
- sid のすすめ

- LaTeX
- DebConf2006 報告
- cowdancer
- MacBook Debian
- module-assistant
- oprofile
- 翻訳のすすめ
- Debian-specific
- i18n
- Flash
- Bug tracking system
- Debian packaging.

5.7 会議の構成

今年の Debian 勉強会にはおおきくわけて三種類の会議形態がありました。

- OSC (春、秋)
- 出張 (OSC 北海道、メキシコ、KOF)
- 通常

東京の OSC での開催は、通常の勉強会に参加するよりハードルを低く設定しています。できるだけ多くの人たちに参加してもらうことを目的としています。これで Debian 勉強会の雰囲気をしてもらい、興味を持ってもらい、通常の勉強会に参加しやすくなるように配慮しています。

Debian 勉強会は、ふたつの目的をもっています。そのふたつの目的にあわせた会議設定をしています。一つめは Debian 開発者の開拓です。二つ目は Debian ユーザの集まる場所を提供することです。

OSC, KOF など、年三回程度のイベントにおいては、他の主催者の企画したイベントのうえでイベントを実施しています。コストも、集客方法も主催者側に一任しています。また、実務上、事前課題の設定などもできていません。

毎月実施している勉強会については、より目的意識の高い会として位置づけています。Debian 開発の側に参画し、よりドキュメントを生成する側にまわり、みんなで Debian の現在の課題についてブレインストーミングできるようになることが目標です。そのため、事前課題を準備して、目的を共有できるような仕組みを準備しています。

また、現状の勉強会の運営については、毎年一回、12月開催の勉強会に確認し、来年度の運営方針を確認することにしていきます。

6 Debian 勉強会 2006 年、作業フロー

上川

どういう作業をしたでしょうか。書き出してみましょう。

6.1 年に一回の作業

- 年次計画を仮決め、毎月どの日に開催するのかを決定して、それをベースにしてその後の議論をする。
- tokyodebian-2006 メーリングリストの作成

6.2 事前準備

- 開催二ヵ月前：開催場所の予約
- 資料の作成
- 開催二週間前：<http://utage.org/enkai> 宴会君への登録
- 開催二週間前：<http://tokyodebian.alioth.debian.org/> ウェブサイトの更新
- 開催二週間前：mixi と debian-users/debian-devel にアナウンス
- 開催二日前：印刷、資料は4の倍数のページ数にして、kinko's にコピー依頼。^{*2}
- 開催一日前：宴会場所の予約

6.3 事後処理

- 議事録の作成
- blog トラックバックの収集

^{*2} 2006 年 10 月、ウェブベースで依頼してみたところ無事印刷されたので、今後はウェブで依頼する予定。

7 Bug Squashing Party

岩松 信洋

7.1 はじめに

今回 Debian JP Project で Bug Squashing Party を行いました。その内容と報告をまとめました。

7.2 Bug Squashing Party とは？

Bug Squashing Party^{*3} とはバグつぶし大会のことです。Debian の場合だと、stable のリリース前や定期的に行われています。目的としては Release Critical Bug を減らしたり問題のあるパッケージを集中的に直したりします。

7.2.1 Bug Squashing Party の重要な点

Bug Squashing Party は以下の点を決める事が重要です。

- 日時
Bug Squashing Party をやる日時と開催期間を決める必要があります。
- 場所
Bug Squashing Party を行う場所を決める必要があります。IRC だけでなく、場所を借りて Face to Face で話し合いながら行う必要もあるからです。
- コーディネーターおよび指揮官
Bug Squashing Party を円滑に進めるため、指揮官が必要です。バグの情報を把握し、参加者に指示を行います。Debian の場合だと、Debian Release Manager や Release チームと話を進めることがあります。このような場合には Release チームに名前が知られている人にコーディネーターになってもらったほうが話が進めやすくなるかもしれません。

7.2.2 コーディネーター、指揮官が行うこと

コーディネーター、指揮官は、以下の事について知っている必要があります。

- Bug Squashing Party の目的を把握する
ただ単にバグを潰すだけではなく、今回は input method に関してのバグを潰す、といった目的があると全体の流れをコントロールしやすいと思います。
- 他で行われている Bug Squashing Party の主催者やコーディネーターと話をする。
他で Bug Squashing Party をやっている可能性があるなので、話をして無駄な作業を減らすよう動く必要があります。
- バグ対策の指示

^{*3} <http://wiki.debian.org/BSP>

参加者にバグの対策を指示します。

7.2.3 参加者が事前を知っておくこと

参加者はただ単にバグを潰すという作業をするだけでなく Bug Squashing Party はどのようなものなのか理解しておく必要があります。

また、Debian の場合は NMU^{*4} を行う可能性が高いので、NMU 時のパッケージバージョンの付け方や Changelog の書き方を知っておく必要があります。もちろん Debian Policy など事前に読んで勉強しておく必要があります。:-)

参加者の中で Debian Developer の方がおられる場合は、Debian Developer ではない人が修正したパッケージのアップロードしたり、いろいろ助言等をしていただけると助かるかもしれません。

7.3 今回行われた Bug Squashing Party

7.3.1 今回の目的

今回、Debian JP Project で Bug Squashing Party を行いました。今回の目的は以下のものがあります。

- etch リリース前なので、RC バグを潰したい
- Bug Squashing Party ってどのようなものなのか、ためしにやってみる
- Debian JP Project はちゃんと活動しています、というアピール

7.3.2 今回の Bug Squashing Party の流れ

どのような流れ、内容でおこなったのか以下にまとめました。

1. 事の発端

OSC 2006 の帰りに gotom さん、上川さん、えとーさん、小林さん、私でサイゼリアで食事していたところ、上川さんが「Bug Squashing Party やりたいねえ。」から始まったが、この時点でだれが話を進めることにするか決まらない。

2. Debian JP IRC ミーティングで議論

Debian JP で行われたミーティングで、私が話を進めることになる。

3. debian-devel@debian.or.jp で提案

Debian JP Project が提供している開発用メーリングリストで提案。^{*5}この投稿によるスレッドで武藤さんから助言を頂く。

4. コーディネーターを決める

Bug Squashing Party を進めるコーディネーターをして、gotom さんに依頼。快諾していただく。

5. 開催日時を決める

ちょうど 11/23 (木) が休みだったので、この日にする。朝弱い人のために 10 時から行うことにした。このあたりは IRC で決めた気がするが、ログがない。開催内容は以下のとおり。

^{*4} Non Maintainer Upload

^{*5} [debian-devel:16525] Bug Squashing Party について

日時	2006 年 11 月 23 日 (木) 10:00 - 15:00		
会場	IRC		
	IRC サーバー	:	osdn.debian.or.jp
	IRC チャンネル	:	#debianjp-bsp
	漢字コード	:	iso-2022-jp
コーディネイター	後藤 正徳さん		

6. 開催告知

debian-users@debian.or.jp および debian-devel@debian.or.jp に開催告知を流した。しかし、反応なし。

7. 開催

無事開催。しかし人の集まりが悪い。人が集まり始めると gotom さんがいろいろ指示をしてくれて、順調に Bug Squashing Party は進んだ。

進めるにあたって、参考にしたサイトは以下のとおり。

- Debian RC バグ曲線
<http://bugs.debian.org/release-critical/>
- 現在の RC バグ情報
<http://bugs.debian.org/release-critical/debian/all.html>
- リリースチームが使っている RC バグ管理サイト
<http://bts.turmzimmer.net/details.php>

8. 終了

15 時に終了。かなり不完全燃焼。NMU するまでが Bug Squashing Party です。

7.3.3 結果

今回行われた Bug Squashing Party の結果は以下の通りです。

● 参加者

- gotom
- iwamatsu
- ay_
- Henrich
- mino
- dancercj
- noril
- kmuto
- omote_bot
- sato_at_deb-newb
- tyuyu

● 活動内容

- xxdiff 修正 Bug#399764^{*6}
- qemu は問題なし Bug#399382^{*7}は close しても問題ない
- murasaki Bug#378318^{*8} hppa only
- libflash-mozplugin Bug#399508^{*9} arm/ia64 only

^{*6} <http://bugs.debian.org/399764>

^{*7} <http://bugs.debian.org/399382>

^{*8} <http://bugs.debian.org/378318>

^{*9} <http://bugs.debian.org/399508>

- rarpd Bug#395739*¹⁰
- cowdancer Bug#384132*¹¹
- zoph Bug#398637*¹²
- リリースノート追従
- po-debconf 更新
- rsjog
- bookview 最新版ビルドしていま作業中、arm fix 失敗

7.3.4 感想

Bug Squashing Party が終わったあと、IRC で意見交換を行いました。

- 5時間は短い。重いバグが残っているので、簡単なバグフィックスではないので、終わらない。
- 普段手をかけていないアーキテクチャのマシンのアップデートだけで数時間かかる（普段から手をかけてメンテナンスしてあげましょう…）
- IRC ですることに関しては問題ない。
- Bug Squashing Party とは、という説明がないので今後準備したいね。
- IRC なら参加していなくても、ちょくちょく様子がみられてうれしい。
- changelog に closed by Debian JP's BSP とか入れたほうがいいのかも。

これらの内容は <http://wiki.debian.org/BSP/DebianJP> としてまとめてあります。

7.3.5 その他の Bug Squashing Party

これは特に Debian だけの特別なイベント（行事？）ではなく、各ディストリビューションやプロジェクトで行っています。

- NetBSD
The NetBSD Bugathon <http://www.netbsd.org/hackathon/>
- OpenBSD
hackathon <http://en.wikipedia.org/wiki/Hackathon>
- Gentoo
Bug day <http://bugday.gentoo.org/>
毎月第1土曜日は Bug day となっている。
- Gnome
Bug day <http://live.gnome.org/Bugsquad/BugDays>

俺一人 Bug Squashing Party を行ったりしている人もおられるようです。

7.4 まとめ

今回、Bug Squashing Party 開催に関係したのですが、開催までは意外と簡単だったように思います。（協力者がたくさんおられたから、というのが一番大きいですが。）今回の開催時間は5時間と短かく、かなり中途半端でした。他の Bug Squashing Party では24時間とか平気でやっているようなので、今後は長い時間確保して行いたいと考えています。また、試験前の学生のようにならず、定期的に行っていかたいと考えています。

*¹⁰ <http://bugs.debian.org/395739>

*¹¹ <http://bugs.debian.org/384132>

*¹² <http://bugs.debian.org/398637>



未定です。内容は本日決定予定です。
参加者募集はまた後程。



Debian 勉強会資料

2006年12月16日 初版第1刷発行
東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
